

# 災害迅速救援へ連携網

## 国際医療 NGO アジア15団体と

岡山市の国際医療NGO「AMDA」とアジア各地の15団体が13日、災害時に連携して救援活動に取り組むネットワークを立ち上げた。地震や津波などの災害情報を共有して受け入れと出動態勢を整え、各団体が協力して迅速な救援活動につなげるのが狙いだ。

韓国や台湾、パキスタン、ミャンマー、トルコなどアジアの13の国と地域から医療や救援団体の代表者が岡山市内に集まり、ネットワーク設立の宣言文に調印した。

名称は「アジア相互扶助災害医療ネットワーク」で、AMDAが交流のある各団体に設立を呼びかけた。2011年に東日本大



ネットワークの設立宣言に署名するアジア各地の団体のメンバーたち。岡山市北区奉還町2丁目、岡山国際交流センター

という。調印式の会見で、各団体の代表者らは「個別に活動するよりも一緒に活動した方が大きな力になる」となどと話した。

AMDAの菅波茂代表は「日本にも災害がくる。その時はすべての団体が日本人を助けてくれる。ネットワークによって、世界で効率的な救援活動に取り組みたい」と話している。

(吉村治彦)

震災が発生した時、海外から多くの救援団体が日本に駆けつけたが、移動手段や宿泊場所、食事などのロジスティックス（後方支援）が不十分だったことへの反省が、設立のきっかけの一つになった。

災害が発生した場合、ネットワークに参加する現地への国の団体が「ロジスティックスセンター」を設け、各団体から調整役のスタッフやボランティアを受け入れる。センターが被災地までの交通手段を確保するとともに、後方支援業務を一元的に管理。各団体は一刻も早く現地入りを目指す。

AMDAには約400人の医師や看護師がボランティアとして登録しており、これまで世界各地の被災地に派遣されてきた。日本でも近い将来、南海トラフを震源とする巨大地震が発生する可能性があり、海外からの支援を仰ぐためにも横断的なネットワークが大切